

## 第10回「ネット時代の『伝え手』」

2007年6月26日

毎日新聞社会部記者 岩佐 淳士

### (1) 「ニューメディア」の可能性と危うさ

#### ・韓国「UCC」

ネット「先進国」の韓国では利用者による情報発信が盛ん。UCCとは「User Created Contents」の略。就職活動、芸能界への登竜門、政治にも利用される。

#### ・「パンドラTV」

UCCの急先鋒が「パンドラTV」。月間利用者数1500万人、シリコンバレーの投資家も融資。キム代表はオールドメディアと比較し、「新大陸を目指す」と称す。

#### ・UCCの問題点

市民ジャーナリズムや内部告発、当事者からの発信など可能性。その一方で、問題も。いじめ動画問題。女子高校生のいじめ動画が流された。パンドラTVは「いじめ問題の現状を訴える」と公開。1日足らずで100万アクセスの反響を呼ぶ。しかし、被害者の女の子は精神的ショックで入院した。匿名サイト「DCインサイド」ではなりすまし問題も話題になった。

### (2) 伝え手の責任

#### ・インターネット「実名制」

韓国では「アクプル（悪意ある書き込み）」が社会問題に。7月から「インターネット実名登録制」導入へ。実名登録で発言に責任を持ってもらうねらい。でもそれだけで解決できるか。政府の規制を強めるのが良いことか。

- ・「事実」の危うさ

「事実」とは何か。「事実」を切り取ることは常に危うさがある。言葉で伝えることの限界もある。それで、当事者でもない、傍観者でもない記者が伝えることの意味はある。

- ・伝えられる側の痛み

事故、事件取材で感じる被害者には壁がある。その溝を埋めるものは何か。

### (3) 可能性を生かすには

- ・誹謗中傷の現状

ネット上の名誉棄損は被害の回復が難しい。被害を訴えること自体がストレスだし、裁判に勝訴しても手続きが進まない。ネット上には被害者に非があるとする論調も目立つ。

- ・法規制か教育か

法律の規制強化はネットの自由を奪うおそれもある。そもそも、法律で縛りきれないのもネットの特徴。ネットリテラシーの向上は急務だが、教育で何ができるか。

以上